

特定外来生物

# オオカワヂシャ

真正双子葉類 オオバコ科 *Veronica anagallis-aquatica*

生態系被害防止  
外来種リストの区分

緊急対策外来種

日本の侵略的外来種ワースト 100

世界の侵略的外来種ワースト 100

哺乳類

鳥類

昆虫類

両生類

魚類

昆虫類

甲殻類

クモ類

貝類

植物

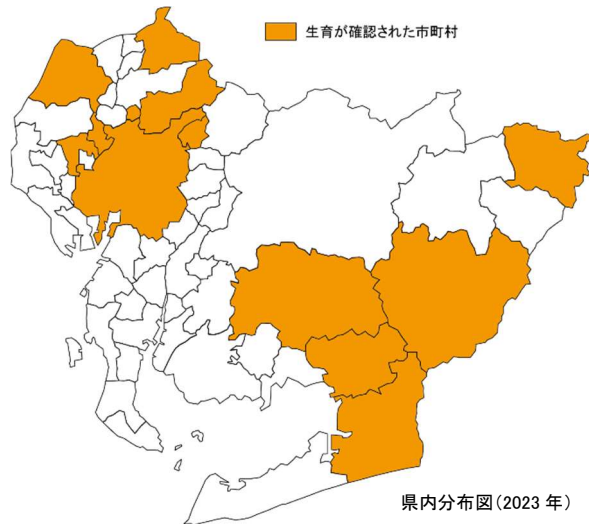
## 基礎情報

### 原産地

- ・ヨーロッパからアジア北部

### 現在の分布

- ・世界では、南北アメリカ、アフリカ、オーストラリアに移入分布
- ・国内では、本州、四国、九州に分布し、特に関東・中部地方で急速に分布を拡大している。
- ・県内では、主に木曽川、庄内川、豊川等の河川敷や尾張地方の平野部に分布している。

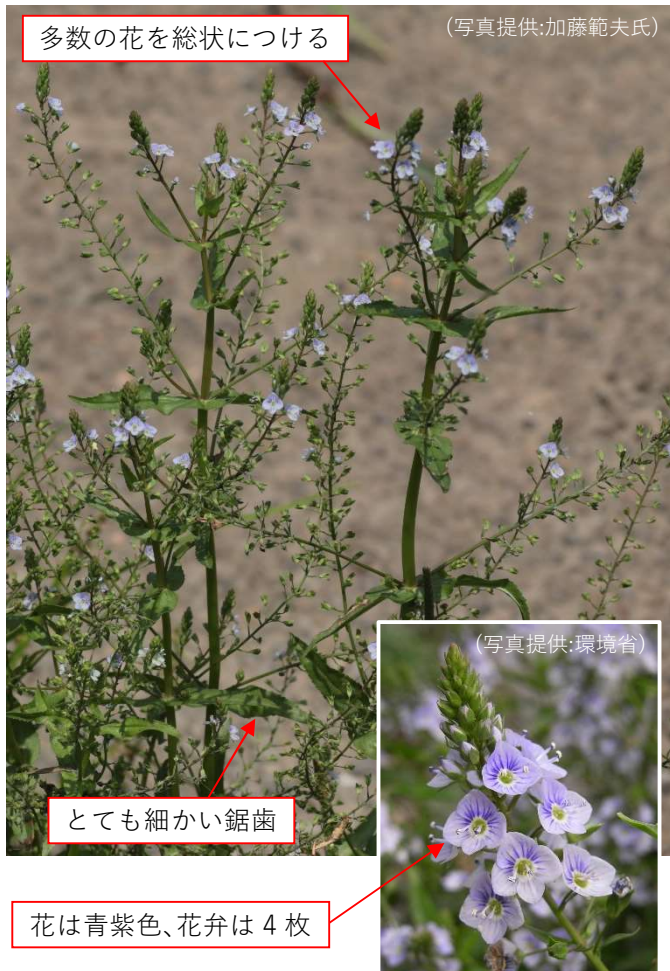


### 侵入の経緯

- ・1867年に神奈川県相模で採集された。侵入時期は不明とされる。
- ・水草などとしての、意図的な輸入や流通はない。
- ・本県の場合、庄内川水系では2000年頃から確認されるようになり、場所によってはかなり群生する。

### 形態

- ・水辺に生育する冬型1年生草本
- ・茎は高さ30~100cm。土の中を横向きに這う地下茎から、真っ直ぐまたは斜め上に伸びる。
- ・葉は対生(1つの節から1対の葉がつく)、柄は無く、葉の付け根が茎を抱くようにつく。葉の形は長い楕円形か、先端に向かって細くなっていく披針形で、長さ3~7cm、幅1~2cm、先端は短く尖る。葉の縁に鋸歯(ギザギザ)があるが、とても細かく、鋸歯が無いように見える。
- ・上部の葉のわきから花茎を伸ばし、多数の花を総状につける。花は、直径5mm程、青紫色で4枚の花弁があり、紫色の筋が目立つ。オオイヌノフグリの花に似ている。
- ・細かい粒状の種子が多数入った球形の果実をつける。

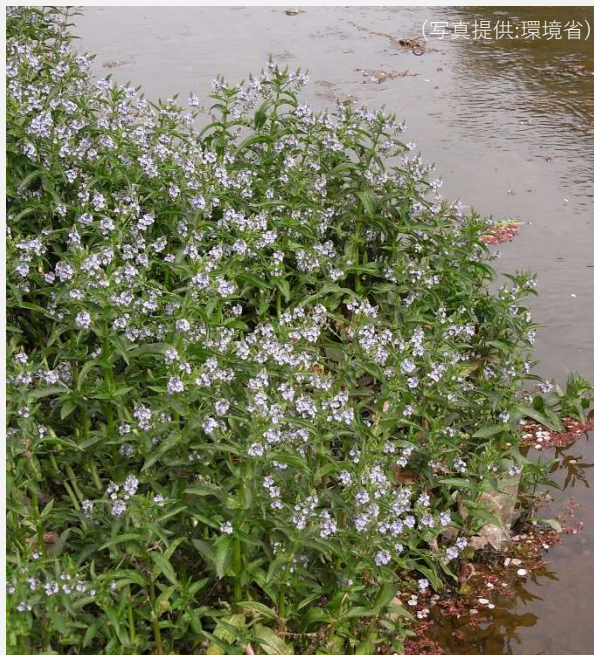


生育環境

・池沼や河川の岸边、水路、水田、湿地などに生育する。

生態・ライフサイクル

- ・開花期は4～6月。冬型1年生(越年生)草本で、秋に発芽して冬を越し、夏までに開花・結実・枯死する。
- ・果実(種子)をつけるが、根茎からの栄養繁殖(クローン成長による増殖)も旺盛に行い、大きな群落を形成する。根茎の断片からも容易に再生する。
- ・茎や根茎の断片、種子が水流によって運ばれ、流れ着いた先で増殖する。このため、大雨時の増水や水流によって広範囲に拡散する可能性がある。
- ・種子は土壤に埋まっても発芽能力を維持し、土壤シードバンクを形成する可能性があると考えられている。



(写真提供:環境省)

河川で繁茂するオオカワヂシャ

【ライフサイクル・防除推奨時期】



類似種との識別ポイント

・池沼、河川、水路などにみられる類似種として、カワヂシャ(在来種)がある。

カワヂシャ(在来種)

(写真提供:芹沢俊介氏)

冬型1年生(越年生)草本。茎は高さ10～50cm。花期は5～6月、花はほとんど白色で直径は3～4mmとオオカワヂシャに比べやや小さい。葉は対生し、柄は無く、葉の付け根が茎を抱くようにつく。葉の縁に先がとがった鋸歯(ギザギザ)がある。

オオカワヂシャ同様、河川敷や水田など低湿地に生育する。本県では生育地や個体数が比較的多いが、全国的には減少しており、環境省レッドリスト(2020)では[準絶滅危惧種(NT)]とされている。

- 哺乳類
- 鳥類
- は虫類
- 両生類
- 魚類
- 昆虫類
- 甲殻類
- クモ類
- 貝類
- 植物



## 影響・被害

- ・繁殖力が強く、群落を形成して在来植物の生育場所を奪う。
- ・在来種のカワヂシャ(環境省レッドリスト 2020 掲載種)と交雑して、ホナガカワヂシャと呼ばれる雑種を形成するため、在来のカワヂシャに遺伝的な攪乱を生じさせるおそれがある。西日本では、ホナガカワヂシャに置き換わりつつあるが、種子は不稔のため遺伝的汚染のおそれは少ないと考えられる。
- ・本種がカワヂシャの群落に侵入すると、訪花昆虫が花の大きい本種の方に来るようになり、カワヂシャの訪花昆虫相が変化し、カワヂシャと訪花昆虫との共生関係に影響を及ぼす可能性がある。



在来種カワヂシャの生育環境 (河川水辺)

## 生育・被害の確認方法

- ・池沼や河川の岸辺、水路、水田、湿地など、本種の生育の可能性がある場所を踏査し、生育個体を目視により確認する。類似種カワヂシャとの識別がしやすい開花期(4~6月)が望ましい。
- ・既存の研究調査に関する文献や目撃情報をインターネットや図書館で探す。
- ・地域の住民や農業従事者、専門家などを対象に聞き取りやアンケート調査を行う。



オオカワヂシャの芽生え (識別が難しい)

## 防除方法

- ・侵入の初期、群落規模が小さいうちに除去することが有効である。
- ・手作業による除去が一般的である。

### 推奨時期

- ・類似種(カワヂシャ)との識別が容易な開花期(4~6月)。種子をつける前(4~5月中旬)に除去することで効率的に減らすことができる。
- ・生育場所が判明している場合、大きく成長する前の冬季や早春は、効率的な除去(駆除作業の労力や、処分量の軽減)が期待できる。ただし、類似種(カワヂシャ)との識別が難しいため要注意。

### 具体的な防除方法

- ・群落の規模が小さく個体数が多くない場合は、他の生物に対する影響が小さい手作業で除去する。茎や根茎が残っていると容易に再生するため、根の抜き取りや底泥ごと剥ぎ取るようにする。
- ・個体数およびバイオマス(植物体の量)が多く大きな労力が必要となる場合は、刈り払い機等により地上部の刈り取りを行う。
- ・最終処理は、一般廃棄物として廃棄(各自治体の基準に従う)する。



河川での防除作業 (シート上で水切りした後に袋詰め)

【主な防除方法】

区分	方法	概要
物理的防除	抜き取りによる除去	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手作業により抜き取る。またはスコップや根掘り等を用いて底泥ごと剥ぎ取り除去する。技術的に実施が容易。</li> <li>・茎や根茎の断片から再生するため、これらを残さないよう留意する。</li> <li>・地下部(根)ごと除去しないと再繁茂のおそれがある。</li> <li>・本種のみを対象とした選択的な除去が可能で、他生物への影響が少ない。</li> <li>・1度の除去作業で根絶に至る可能性は低く、複数年継続する必要がある。</li> </ul>
	刈り取りによる除去	<ul style="list-style-type: none"> <li>・種子をつける前(4~5月中旬)にカマや刈り払い機で地際から刈り取る。</li> <li>・抜き取りによる除去に比べ労力を必要とせず、種子による繁殖を抑える効果があるが、根茎が残るため再生する可能性がある。</li> <li>・1度の除去作業で根絶に至る可能性は低く、複数年継続する必要がある。</li> </ul>

哺乳類

鳥類

類

作業上の注意点等

- ・防除作業を行う前に、対象地の所有者・管理者の承諾を得る。必要に応じて、地域住民にも防除の目的や活動内容を周知する。
- ・生きたまま保管・運搬等することは原則禁止されているため要注意(植物の場合は完全に枯死させる必要がある)。地方公共団体の職員が処分のために一時的に行う特定外来生物の運搬は飼養等禁止の例外規定に該当するが、市町村が単独で長期的に防除を行う場合は、国による防除の確認を受けることが望ましい。なお、地域住民やボランティアが植物に関して小規模な防除を行う場合は、以下の要件をすべて満たせば保管・運搬が可能になる。

- ①小規模な防除を行う者が、当該防除に伴い運搬をするものであること。
- ②防除した当該植物を処分することを目的として、廃棄物の収集、運搬又は処分に供する施設に運搬すること。
- ③当該植物の落下、種子の飛散その他の理由による野外への逸出を防止するための措置をとっていること。
- ④防除を行う者が、あらかじめ当該防除に関する事項を掲示板、インターネット等を使用する方法により公表していること。

- ・茎や根茎の断片から容易に再生するため、作業箇所の下流にネットやオイルフェンスを張り、断片が下流に流れないようにする。作業に使用した道具、長靴、刈り払い機などに種子や断片が付着して運ばれる可能性があるため、作業後は洗浄する。
- ・種子の発芽率が高く、細かい粒状で散布されやすいことから、なるべく種子をつける前に除去する。
- ・除去した個体は袋に詰める。種子をつけている場合は、袋の外にこぼれ落ちないように留意する。
- ・土壌シードバンクを形成する可能性があるため、作業後も定期的に確認を行い、再生が認められた場合は直ちに取り除く。

は虫類

両生類

魚類

昆虫類

甲殻類

必要な法令上の手続き等

- ・特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律に基づく防除の確認・認定の手続き(市町村単独の防除の場合)
- ・河川法に基づく河川区域内作業届、工作物の新築許可申請等(場所・方法によっては必要)

クモ類

出典・参考資料

- ・侵入生物データベース > 日本の外来生物 > 維管束植物 > オオカワヂシャ (国立研究開発法人 国立環境研究所) <https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/81130.html>
- ・日本の外来種対策 > 特定外来生物の解説 > オオカワヂシャ (環境省 自然環境局) <https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/L-syo-05.html>
- ・日本の外来種対策 > 外来種写真集 (環境省 自然環境局) <https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/asimg.html>
- ・特定外来生物同定マニュアル 植物 (環境省 自然環境局) [https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/manual/10hp\\_shokubutsu.pdf](https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/manual/10hp_shokubutsu.pdf)
- ・地域と連携した外来植物防除対策ハンドブック(案) (国土交通省 河川環境課,2021)
- ・長野県版外来種対策ハンドブック~みんなで守る信州の自然~ (長野県,2020)
- ・愛知県の外来種 ブルーデータブックあいち 2021 (愛知県,2021) p.163 オオカワヂシャ (芹沢俊介・瀧崎吉伸)

貝類

植物